

主要施策名:(1)自然環境の保全

事務事業本数:4

基本目標(章)	主要施策(節)	施策区分	事務事業コード	事務事業	所管課
①自然と暮らしを守るふるさとづくり	(1)自然環境の保全	(2)河川環境の保全	112-1	河川環境保全啓発事業	環境整備課
			112-2	環境調査監視事業	環境整備課
		(1)地下水の保全	111-2	旧焼却場等跡地水環境整備事業	環境整備課
		(2)河川環境の保全	112-4	悪用水路整備事業	土木課



《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H29実績	H30実績	R01実績	R02計画
① 河川水援隊事業	市が委嘱する河川水援隊により定期的な川の 水質調査、監視を行う。	調査回数	回	288	288	288	288
② 廃油石けんの普及事業	廃油石けんの原料を関係団体 へ支給する。	凝固剤支給量	本	160	81	68	70
③ EM活性液・ぼかしの普及 事業	EM活性液、ぼかしの原料を関 係団体へ支給する。	培養液支給量	本	30	17	13	15

《コスト評価による年度比較》 【19】

コ ス ト 評 価	H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算		R02年度予算		
	対象( 市民 )	67242	66850	66319		65817	
	投入コスト合計(千円)	2,269	2,401	1,975		2,634	
	対象1単位あたりのコスト(千円)	0	0	0		0	
コスト評価(対前年比)	***	93.93%	( ↓ )	120.62%	( ↑ )	74.41%	( ↓ )

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H29目標	H30目標	R01目標	R02目標
			H29実績	H30実績	R01実績	
1 河川環境保全啓発活動参加者数	川の生き物調査など河川の保全・浄化啓発 に関する活動に参加した延べ人数	人	500	500	500	500
			647	679	521	
2						
* 成果未達成時の理由						

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	・市が実施するよう法令等で義務づけられている	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	・法令等で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	・市が事業へ関与する必要が薄れている	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
有効性 【23】	<input type="checkbox"/>	・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	
公平性	<input type="checkbox"/>	・事業開始当初の目的から変化してきている	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	・事業開始当初の目的から変化してきている	
	<input type="checkbox"/>	・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい	a
	<input type="checkbox"/>	・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である	
	<input type="checkbox"/>	・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある	
	<input type="checkbox"/>	・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	
	<input checked="" type="checkbox"/>	・成果指標を設定している	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	・成果指標の目標値を達成した	b
	<input type="checkbox"/>	・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない	
	<input type="checkbox"/>	・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる	
	<input type="checkbox"/>	・法定事務であり成果は求めにくい	
	<input type="checkbox"/>	・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	
	<input checked="" type="checkbox"/>	・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している	
	<input type="checkbox"/>	・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	
	<input type="checkbox"/>	・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる	・負担率【 0.00 %】
	<input checked="" type="checkbox"/>	・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input checked="" type="checkbox"/> ・設定できない理由( 受益者負担はなじまない。 )	【24】

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して 見直し・改善状況 【25】	特になし。			
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続	<input type="checkbox"/> 縮小して継続	総合判定 A
	<input type="checkbox"/> 執行方法の改善	<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 終了	
今後の方向性に対する 見直し・改善の具体的内容	河川の主な汚濁源が生活排水によるものであることから、河川水援隊による定期的な監視、廃油石けん団体などの河川の 浄化活動等7つの細事業を通して市民に河川環境保全への意識を高めるためにも、引き続き現状で継続していく。			
次年度への予算反映(連動) 【27】	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名)			
	<input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)			

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【28】	油流出事故等による河川の水質悪化に備えるとともに、河川水援隊による河川監視や市民団体による浄化活動を支援することにより、美 しく豊かな河川を次世代に引き継ぐ必要がある。また、次世代を担う子どもたちを対象に川の生物調査を行うことで、地域の自然の豊かさ を発見し継承する意識を芽生えさせることができることから事業を継続する必要がある。	評価責任者 塚本昭広
----------------------	---	---------------



《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H29実績	H30実績	R01実績	R02計画
① 河川水質検査業務	河川の水質検査を実施する。	検査回数	回	6	6	6	6
② 工場排水土壌検査業務	特定工場排水の調査、監視を実施する。	検査回数	回	1	1	1	1
③ 緊急水質土壌調査業務	突発的な事故等を要因とする水質土壌調査を行う。	検査回数	回	0	0	0	0

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算		R02年度予算	
	対象( 市民 )	67242	66850	66319		65817
投入コスト合計(千円)	895	887	850		1,059	
対象1単位あたりのコスト(千円)	0	0	0		0	
コスト評価(対前年比)	***	100.30% (↑)	103.51% (↑)		79.68%	(↓)

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H29目標	H30目標	R01目標	R02目標
			H29実績	H30実績	R01実績	
1 工場排水土壌検査異常箇所数	調査を行い異常があった箇所数	所	0	0	0	0
2 河川水質検査で基準を下回るところの数(熊本県生活環境の保全に関する環境基準・A類型)	左記/全体	%	0	0	0	0
			52.0	45.6	48.3	
* 成果未達成時の理由		前年と検査場所の違いで異常が見られたが、適正に指導した。				

《事務事業の評価》

	評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/> ・市が実施するよう法令等で義務づけられている <input checked="" type="checkbox"/> ・法令等で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> ・市が事業へ関与する必要が薄れている <input type="checkbox"/> ・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> ・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる <input type="checkbox"/> ・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> ・事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> ・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い b
	効率性 【22】	<input checked="" type="checkbox"/> ・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している <input checked="" type="checkbox"/> ・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> ・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である <input type="checkbox"/> ・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある <input type="checkbox"/> ・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> ・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
有効性 【23】		<input checked="" type="checkbox"/> ・成果指標を設定している <input type="checkbox"/> ・成果指標の目標値を達成した <input type="checkbox"/> ・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない <input type="checkbox"/> ・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる <input type="checkbox"/> ・法定事務であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> ・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> ・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> ・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある
	公平性	<input type="checkbox"/> ・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる ・負担率【 0.00 %】 <input checked="" type="checkbox"/> ・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input checked="" type="checkbox"/> ・設定できない理由( 受益者負担はなじまない ) 【24】

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	河川水質検査において水量が少ない排水路があるが、調査時期の天気等の影響もあり具体的な採取地点の変更は行っていない。			
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 執行方法の改善	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 終了	総合判定 C
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	河川水質検査においては、水量の少ない排水路があり、採水不可の時に備え採取地点の候補を検討する。また、河川水及び特定工場の排水調査を定期的に調査、監視することにより市民の快適な生活環境の確保と不安解消のためにも現状で継続したい。			
次年度への予算反映(連動) 【27】	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)			

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【28】	河川の水質調査や特定工場の排水調査、周辺河川等の水質及び土壌の調査・監視を継続して実施することで、公害の発生防止や早期発見のために必要な事業である。	評価責任者 塚本昭広
-------------------	--	---------------



《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H29実績	H30実績	R01実績	R02計画
① 旧クリーンセンター汚水処理室運転管理業務	委託業者により汚水処理室の運転管理業務を行う。	機器点検回数	回	52	52	52	52
② 旧焼却場等地下水水質検査業務	旧焼却場跡地で採取した地下水等を検査する。	水質検査等回数	回	33	33	33	33
③ 旧焼却場施設等修繕業務	旧焼却場施設等の修繕を行い適切な維持管理を行う。	施設修繕回数	回	4	1	2	2

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H29年度決算		H30年度決算		R01年度決算		R02年度予算	
	対象( 市民 )	67424	66850	66319	65817			
投入コスト合計(千円)	7,869	8,272	12,193	9,133				
対象1単位あたりのコスト(千円)	0	0	0	0				
コスト評価(対前年比)	***	94.32%	( ↓ )	67.30%	( ↓ )	132.49%	( ↑ )	

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H29目標	H30目標	R01目標	R02目標
			H29実績	H30実績	R01実績	R02実績
1 水質検査異常率	結果異常/検査回数×100	%	0	0	0	0
2			0	0	0	

\* 成果未達成時の理由

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	・市が実施するよう法令等で義務づけられている	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・法令等で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい	
有効性 【23】	<input type="checkbox"/>	・成果指標を設定している	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・成果指標の目標値を達成した	
公平性	<input type="checkbox"/>	・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> 金額が妥当 <input type="checkbox"/> 金額が高すぎる、または安すぎる	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> 設定できる <input type="checkbox"/> 設定できない理由( ) 【24】	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	旧焼却場廃止後も専門業者による定期的な検査を行い、環境汚染を起こさないよう適切に管理できた。		
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 終了
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	今後も引き続き管理を行い、環境を維持していく。		
次年度への予算反映(連動) 【27】	<input type="checkbox"/> 増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> 減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【28】	焼却場及び最終処分場跡地については、汚水等が周辺に流出していないか監視を続けていかなければならない。最終処分場跡地の汚水処理施設の管理や周辺地下水の水質検査を継続して行うことにより焼却場跡地周辺の水環境の保全に努める必要がある。	評価責任者 塚本 昭広
-------------------	--	----------------



《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H29実績	H30実績	R01実績	R02計画
① 悪用水路整備事業	生活用水路の改良を行う。	工事発注箇所数	箇所	6	4	4	4
② 悪用水路整備委託事業	生活用水路の改良を委託で行う。	委託発注件数	件	7	4	1	4
③ 排水路整備に伴う機械借上事業	軽微なものに対し、機械借上料を支給する。	機械借上件数	件	1	0	5	4

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算		R02年度予算		
	対象( 施工延長 )	474	449	323		166	
	投入コスト合計(千円)	51,654	54,217	42,863		49,819	
	対象1単位あたりのコスト(千円)	109	121	133		300	
コスト評価(対前年比)	***	90.25% (↓)	90.99%	(↓)	44.22%	(↓)	

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H29目標	H30目標	R01目標	R02目標
			H29実績	H30実績	R01実績	
1 整備延長数	施工延長	m	550	535	323	166
			474.40	448.7	297	
2						

\* 成果未達成時の理由 目標に対し、現場状況が変わり変更が生じ進捗が伸びなかった。

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	・市が実施するよう法令等で義務づけられている	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・法令等で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい	
有効性 【23】	<input checked="" type="checkbox"/>	・成果指標を設定している	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・成果指標の目標値を達成した	
公平性	<input type="checkbox"/>	・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> 金額が妥当 <input type="checkbox"/> 金額が高すぎる、または安すぎる	負担率【 0.00 %】 【24】
	<input type="checkbox"/>	・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> 設定できる <input type="checkbox"/> 設定できない理由( )	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	悪用水路の整備を行った事により、円滑な流れと衛生的な生活環境を提供できた。		
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 終了
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	近年ゲリラ豪雨及び予想外の雨量により排水路等が冠水し道路及び民地が浸水するなど排水路全体の改修が求められるが、現在の単独事業では限界があるため、今後補助等のメニューを模索し補助事業を取り入れ今後調査及び改修を行う必要がある。		
次年度への予算反映(連動) 【27】	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【28】	改善箇所がまだ多く残っているため、年次計画を立て計画的に行っていく。	評価責任者 田代史典
----------------------	------------------------------------	---------------